

〈研究ノート〉

公立小学校における「総合的な学習の時間・生活科」に 焦点を当てた校内研究 — 校内研究会の立ち上げ —

五十嵐 敏 文*

In-school study group focusing on “The Period for Integrated Studies and Living Environment Studies”
in public elementary schools:
Starting up a school study group

Toshifumi Ikarashi

キーワード：総合的な学習の時間、生活科、校内研究、研究主任、研究授業

I. はじめに

本稿は、筆者が研究主任として取り組んだ研究推進委員会の実践記録である。

多くの小学校では、教務部、生活指導部、特別活動部、研究推進委員会等に校務分掌が分けられ学校が運営されている。その中の研究推進委員会とは、授業研究を通して教師の力量アップと子どもたちの成長を目指す部会である。

各校において研究推進委員会による校内研究会は大変意欲的に進められており、一年間に3～6回の研究授業や5程度程度の校内研究会が行われそれらの記録が研究紀要としてまとめられている。しかし、多くの学校は印刷したとしても、校内の教員に配布したり、市内の各校に数冊ずつ配布したりする程度である。せっかくの研究内容が、共有化なされていないことが大きな課題である。

II. 本稿の目的

各校における研究推進委員会の実践記録は、報告される機会や場が少ない。そのため本稿を通して、公立小学校の研究推進委員会の取り組みを報告し、研究の進め方や研究内容の共有化を図ることが目的

である。

III. 本稿で扱う資料

本稿は、校内研究の実践報告である。そのため、校内研究の様子を報告すると共に、校内研究の場で配布された資料や研究紀要についても扱うこととする。これらの資料は校内研究会に所属する教員同士が情報の共有をするために、校内研究会の場で配布していたものである。

IV. 第1回校内研究(平成25年4月23日)

第1回目の校内研究会では、平成25年度の研究内容について研究推進委員会より下記の提案を行った。

1. 今年度の研究について

(1) はじめに～校内研究について～

学校で取り組む授業研究、つまり校内研究とは「教師自らの成長」「子どもたちの成長」へとつながるものであり、それらを目指していけるものであると考える。校内研究というと、「研究授業の準備が大変」「授業者にかかる負担が大きく授業者を避けたい」と思われていることが実態であろう。上にも

* 日本女子大学

述べたが、実際は、自らの教師としての成長と、クラスの子どもたちの成長の二つが実現されるものである。ここで大切になってくることは、授業の観察者が子どもたちや授業の実際を見取り授業を省察することによって、授業者と子どもたちの良さや課題を明らかにし、改善策を見出すことにより、授業者だけではなく一人一人の子どもたちやクラス全体、そして最後は学校全体の成長へとつなげていくことを目指す校内研究を実現していきたいと考えている。つまり、観察者が授業をどう見とれるか、そして、どう評価しどう今後へとつなげていけるのかといったように、授業研究は参観者にかかっているといても過言ではないと考えている。

(2) 基本方針

「研究授業の準備が大変」「授業者にかかる負担が大きく授業者を避けたい」と思われるのではなく、「研究授業を行いたい」と思える校内研究にしていきたい。そのために、

※授業者が負担と思わない指導案作成

※子ども（クラス）の成長を見取れる授業観察

※授業したことを授業者が得したと思える授業協議会の三つを実現していきたいと考えている。

① 授業者が負担と思わない指導案作成

指導案の形式は研究推進から示し、プロットや枠を作成した word のデータを各学年に配布する（4月中に、研究推進フォルダへ入れておきます）。また、本時の授業で焦点を当てる研究の視点も、研究推進から提示していく。

② 子ども（クラス）の成長を見取れる授業観察

授業の評価は、子どもの学ぶ姿を基になされることが大切であると考えている。そのためにも研究授業では、子どもの発言や学ぶ姿、授業者の発問等の記録を、授業記録としてしっかりと取ることを推進していきたい。「板書が計画的なものであったか」、「授業者が計画通りの発問をしていたのか」、「指導計画通りに授業を進められたか」という授業者の視点で授業を観察することも大切ではあるが、ぜひ、子どもの視点でもそれらがどうだったかといった授業観察をしていただきたいと考えている。いくら計画通りに授業を進められたとしても、子どもたちの学びに対する意欲が低下しているような姿が表出しているようであればどこかに課題があるにちがいないと

考えるためである。また、子どもの発言、子どもの学ぶ姿を丁寧に観察するということは、子どもたちの良さを発見することにもつながる。例えば、普段は友達に対して配慮の欠ける行動をとってしまう A 君だが、授業中の友達との関わり合いでは、やさしく友達に分かったことを教えてあげていた姿を観察できたとしよう。それを協議会やその他の場で授業者に伝えることができたとき、授業者は A 君に対しての児童理解が深まり、学級経営にもよい影響が表れるであろう。つまり、子どもが学んでいる姿を丁寧に観察し授業記録を残していくことは、授業の評価だけではなく、子ども（クラス）の成長している姿を見取ることができ、授業者が把握しきれていない子どもの児童理解につながることを期待できる。

③ 授業したことを授業者が得したと思える授業協議会
授業の批判、授業者の批判で終えてしまう協議会や、「お疲れ様でした」と労いの言葉をかけて終えてしまう協議会が見られることが多々ある。もちろん授業者は、指導案作成や当日の授業の実践などで大変な思いをして授業研究をしていくことになると思うが、それだけで終えてしまう協議会では授業者として「やっと終わった…」と思うだけの授業研究になってしまう。そうならないように、②でも記したが授業者が授業をやった良かったと思える授業協議会を実現したいと考えている。課題だけではなく、子どもや授業者そして授業自体のよさ、また、本時だけではなく次時における改善策をもしっかりと見えてくる協議会を実現していきたい。協議会の中身に関して今後提案していく。

(3) 研究経緯と平成 25 年度の校内研究

平成 24 年度までの 3 年間にわたる研究では「豊かにかかわり、生き生きと学ぶ児童の育成（生活科・理科）」というテーマのもと、「児童の理想的な姿」「児童が意欲的に問題作りを行うことができる事象提示の仕方」「実験結果や考察の時間を効果的に確保できる学習計画」「科学的な思考を高めるための言語活動の充実」を探りながら、「問題解決学習」に焦点を当てた研究を行ってきた。それらの研究を経て、平成 24 年度の下記研修会では図 1 の資料が学校長より配布された。

よって平成 25 年度は「生活・総合的な学習の時間」に焦点を当て、これまでの研究を生かし問題解

本校児童は、概ね良好な学習態度と学力を身に付けており、習得、活用の力は概ね良好です。この実態があればこそ、探究の力を育むことが可能と考えます。この力は、これからの社会を生きる人間に求められる力として政府が定めている力と同じ方向性です。(*)

また、

「生きる力」が全人的な力であるということを踏まえ、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような新たな手立てを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考え。…中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(平成8年7月)

からも、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すことが目標である総合的な学習の時間に焦点を当てる研究を25年度より深めていくこととします。

そのためにまずは、生活科・総合的な学習の時間に正面から取り組み、指導計画を整備し、本校児童に確かな学力をさらに育成したいと考えます。

(*) ①課題を発見し解決していく能力 ②課題を解決していく論理的思考力、判断力 ③コミュニケーション能力などである。…新成長戦略で目指している能力(平成22年6月18日閣議決定)

図1. 夏季研修会校長資料

決学習の実現を目指していきたい。教科は変わるが、決して今までの研究が途絶えたりゼロからスタートになったりということにはならないと考えている。むしろ、これまでの研究【問題解決学習 **つかむ** → **予想する** → **確かめる** → **まとめる**】があるからこそ、気づきの質を高めることや探究的な学習を目指す生活科・総合的な学習の時間の研究を構築していけるにちがいない。

2. 今年度の研究テーマと内容

平成24年度まで「豊かにかかわり、生き生きと学ぶ児童の育成」で研究を進めてきた。理科の授業以外から認められた理科的な成果として、

- ・他教科においても、観察や調べ学習を取り入れることで、興味・関心をもって観察したり、進んで知ろうとしたりする児童が増えた(低)
- ・算数科や社会科でも問題解決学習に取り組んだ。自分で予想を立てたり、自分の考えをもったりす

る学習を多く取り入れたことで学習の流れが定着してきた。(中・高)

など、理科以外の他教科でも子どもたちの学習意欲の向上が見られるようになってきたことが分かった。これは、研究の成果がはっきりと表れている証拠であり、他教科においてもさらなる子どもの成長が期待できる成果である。これらの成果の軌跡からも研究テーマを大きく変えるのではなく、むしろ、研究テーマは継続しながら他教科(生活科・総合的な学習の時間)に焦点を当てることにより、子どもたちが生き生きと学ぶ姿をさらに追いかけていきたいと考える。生き生きと学ぶために必要になってくる学びの原動力は、自らの問いであろう。意欲的に学ぶためには、教師から与えられた問いではなく、自らが見出した問いが絶対条件であると考え。生活科においては、気づきの質が高まり試行錯誤を伴った活動が深まっていくことが学びの原動力となるであろう。

全ての教科において、生き生きと子どもたちが学びを楽しむ姿が見られるようになったとき、そこには理想とする学びの共同体としての本校があるに違いない。

よって、今年度の研究テーマを、以下のように提案する。

自ら課題を設定し、主体的に学ぶ児童の育成

サブテーマとして、今年度は「生活科」「総合的な学習の時間」に焦点を当てて研究を進めていくために、二つの教科におけるキーワード「気づきの質を高める」「探究的な学習」を取り入れ、

気づきの質を高める学習と探究的な学習を通して

を提案する。「気づきの質が高まる」とはどのようなことなのか、また、どのような手立てを講じたら実現するのか、「探究的な学習」についてはどのような手立てを講じたら探究が継続していくのかなどについて研究を進めていきたいと考えている。

3. 研究の目的

- ・生活科においては、気づきの質を高める指導法を明らかにする。
- ・総合的な学習の時間においては、児童が主体的に学べる探究的な学習過程を実現できる指導法を明らかにする。

【総合的な学習の時間の目標】

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する能力を育成する
 - ・学習過程を通して、自らのことを知り、自らを高め、自己の生き方を考えていける基礎を培う
- 【目指す「総合的な学習の時間」年間構想】
- ・年間を通して、30時間程度の大単元を二つ、三つ構想する。

【目指す単元構想】

- ・子どもたちの学びが継続し、自ら学び続けたいという問題解決学習の構想（2、3サイクルが望ましい）

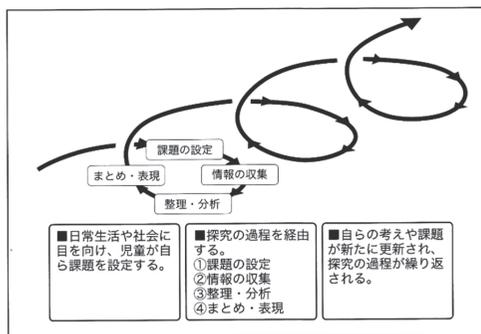


図2. 探究的な学習における児童の学習の姿（文部科学省，2008a：31）

【育てたい力】

- ・かかわる力 ・探究する力 ・活かす力

4. 研究方法

研究テーマに迫るため、以下の研究組織及び研究方法を用いることを提案する。

(1) 研究組織案

各学年部会を研究組織の母体としたい。専科教員は教材開発及び日常的に関係の深いであろう学年部に所属するようにした。また人数の関係で、専科教員は二つの学年部に属していただくことになる。

(2) 授業研究における視点

気付きの質を高めるために、そして探究的な学習を実現するために以下の視点で授業を構想する。

【生活科】

<気付きや考えを生み出すための工夫>

表1. 研究委員会組織案（筆者作成）

1 学年部会	4 人
2 学年部会	4 人
3 学年部会	3 人
4 学年部会	3 人
5 学年部会	3 人
6 学年部会	3 人

- ・身近な材 ・広い場所 ・試行錯誤 ・教師による言葉かけ「もっと○○するためには？」「どんな工夫をしたの？」等

<気付きの質を高め合うための工夫>

- ・振り返り活動の工夫 等

【総合的な学習の時間】

<各学習過程の工夫>

①課題設定の工夫について

- ・体験活動の対比 ・資料の比較 ・グラフの推移の予測 ・KJ法的な手段
- ・対象への憧れから ・問題の序列化 等

②情報収集の工夫について

- ・アンケート調査 ・インタビュー 等

③整理・分析の工夫について

- ・カード ・グラフ ・マップや図 等

④まとめ・表現の工夫について

- ・プレゼンテーションでまとめ発表する
- ・新聞でまとめ表現する 等

<単元開発、指導計画の作成>

- ・オリジナル単元の開発

その他に以下の視点も忘れずに単元及び授業作りをしていきたい。

- ・他教科との関連を明確にした単元構想

横断的・総合的な学習が実現するために、他教科との関連性を高めていきたい。

5. 研究日程

4月24日（水）…校内研【平成25年度 校内研究の提案 & 意見交流】

6月4日（火）…研究授業

6月24日（月）…研究授業

7月17日（水）…校内研 全体会・ブロック会

8月30日（金）…校内研 全体会・ブロック会

9月25日（水）…研究授業

10月 9日(水) …研究授業
 11月 6日(水) …研究授業
 12月18日(水) …研究授業
 2月 5日(水) …校内研【一年間の振り返り】
 3月19日(水) …校内研【次年度に向けての提案】
 ※講師の先生に依頼済みのため、校内研究授業日は以上の日程でお願いしたいと思います。

6. この後、各学年で話し合っていたきたいこと

- ・ 授業者の決定
- ・ 授業日程の希望日選択
- ・ 授業単元について
- ・ 子どもの実態アンケートについて

7. 「総合的な学習の時間」に関わる情報

(1) 「総合的な学習の時間」創設の趣旨と経緯

・ 「ゆとりの中で「生きる力」をはぐくむ」との方向性を示した平成8年7月の中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において創設が提言された。「「生きる力」が全人的な力であるということを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進しうるような新たな手立てを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる」とし、「一定のまとまった時間（総合的な学習の時間）を設けて横断的・総合的な指導を行うこと」を提言した。（文部科学省，2008a：3）

(2) 「総合的な学習の時間」の課題

- ・ 大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも達成されていない状況も見られる。また、小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取り組みの重複も見られる。
- こうした状況を改善するために、総合的な学習の時間のねらいを明確化するとともに、子どもたちに育てたい力や学習活動の示し方について検討する必要あり。
- ・ 補充学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われていたり、運動会の準備などと混同された実践が行われていたりしている例も見られる。

→ 関連する教科内容や特別活動との関連の整理が必要（文部科学省，2008a：4）

(3) 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

図3. 「総合的な学習の時間」における目標（文部科学省，2008a：10を基に筆者作成）

(4) 目標の趣旨

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の生き方を考えることができるようにすること（文部科学省，2008a：12）

(5) 各学校において定める目標及び内容

各学校において、第1の目標を踏まえ目標と内容を定める（文部科学省，2008a：18）

(6) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

- ①全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと
- ②地域や学校、児童の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと
- ③第2の各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会とのかかわりを重視すること
- ④育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関する

こと、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること

⑤学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと

⑥各教科、道徳、外国語活動及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること

⑦各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動をおこなうこと

⑧各学校における総合的な学習の時間の名称については、各学校において適切に定めること

⑨道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特徴に応じて適切な指導をすること。（文部科学省、2008a：21）

（7）育てようとする資質や能力及び態度の設定

各学校の目標が実現された際に現れる望ましい児童の成長の姿が示されることになる。「学習に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会との関わりに関すること」の3つの視点に配慮する必要がある。

「学習に関すること」

- ・問題状況の中から課題を発見し、設定する
- ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる
- ・手段を選択し、情報を収集する
- ・必要な情報を収集し分析する
- ・問題状況における事実や関係を把握し理解する
- ・多様な情報の中にある特徴を見付ける
- ・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える
- ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、整理する
- ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など

「自分自身に関すること」

- ・自らの行為について意思決定する
- ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する
- ・自らの生活の在り方を見直し、実践する
- ・事故の将来を考え、夢や希望をもつ など

「他者や社会とのかかわりに関すること」

- ・異なる意見や他者の考えを受け入れる
- ・他者と協同して課題を解決する
- ・身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する
- ・課題の解決に向けて地域との活動に参加するなど（文部科学省、2008a：50）

（8）学習対象

〔横断的・総合的な課題〕

- ・地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観
- ・情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化
- ・身近な自然環境とそこに起きている環境問題
- ・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題
- ・身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々
- ・毎日の健康な生活とストレスある社会
- ・食をめぐる問題と地域の農業や生産者
- ・科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化 など

〔児童の興味・関心に基づく課題〕

- ・将来への展望とのかかわりで訪ねてみたい人や機関
- ・ものづくりの面白さや工夫と生活の発展
- ・生命現象の神秘、不思議、すばらしさ など

〔地域や学校の特色に応じた課題〕

- ・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
- ・地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々
- ・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
- ・防災のための安全な町づくりとその取組 など（文部科学省、2008a：56）

（9）年間指導計画の作成

①児童の学習経験に配慮すること②十分な見通しをもった周到な計画にすること③季節や行事など適切な活動時期を生かすこと④他教科等との関連を見通すこと⑤学年間の関連を見通すこと⑥弾力的な運用

に耐えうる柔軟性をもつこと⑦外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること（文部科学省，2008a：65）

(10) 評価の方法

学習状況の評価は、児童がこの時間の目標について、どの程度実現しているのかという状況を把握することによって、適切な学習活動に改善するためのものである。

- ・発表や話し合いの様子、学習や活動の状況などの観察による評価
- ・レポート、ワークシート、ノート、作文、絵などの制作物による評価
- ・学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオによる評価
- ・一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することによるパフォーマンス評価
- ・評価カードや学習記録などによる児童の自己評価や相互評価
- ・教師や地域の人々等による他者評価 など（文部科学省，2008a：78）

8. 「生活科」に関わる情報

(1) 課題

- ・学習活動が体験だけで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないこと。
- ・表現の出来栄えのみを目指す学習活動が行われる傾向があり、表現によって活動や体験を振り返るといった、思考と表現の一体化という低学年の特徴を生かした指導が行われていないこと
- ・児童の知的好奇心を高め、科学的な見方・考え方の基礎を養うための指導の充実を図る必要があること（文部科学省，2008b：4）

(2) 目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

図4. 「生活科」における目標（文部科学省，2008b：9を基に筆者作成）

(3) 目標の趣旨

- ①具体的な活動や体験を通すこと
 - ②自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと
 - ③自分自身や自分の生活について考えること
 - ④生活上必要な習慣や技能を身に付けること
 - ⑤自立への基礎を養うこと
- （文部科学省，2008b：10）

(4) 内容構成

- ①自分と人や社会とのかかわり
 - ②自分と自然とのかかわり
 - ③自分自身
- 具体的には

ア…健康で安全な生活 イ…身近な人々との接し方 ウ…地域への愛着 エ…公共の意識とマナー オ…生産と消費 カ…情報と交流 キ…身近な自然との触れ合い ク…時間と季節 ケ…遊びの工夫 コ…成長への喜び サ…基本的な生活習慣や生活技能（文部科学省，2008b：19）

(5) 具体的な学習活動や学習対象

- ①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路
- ⑤家族 ⑥家庭 ⑦地域で生活したり働いたりしている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事
- ⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと（文部科学省，2008b：21）

(6) 各内容の構成要素

学習指導要領を参照（文部科学省，2008b：22）

(7) 生活科の内容

学習指導要領を参照（文部科学省，2008b：22-40）

9. 研究推進アンケートについて

校内研究を進めるにあたり、先生方にアンケートのご協力をお願いした。詳細は資料参照。

V. まとめ

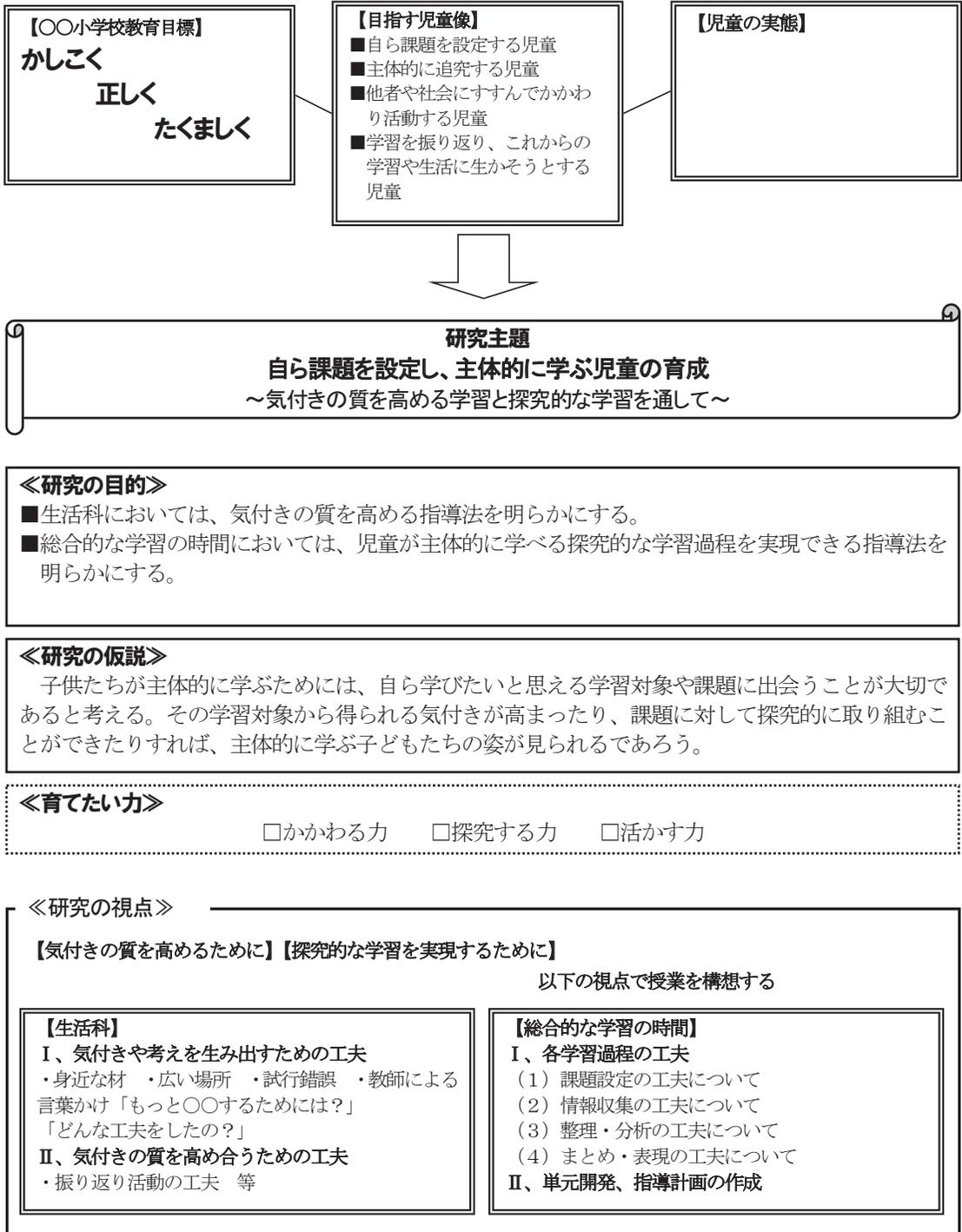
本稿では、公立小学校における校内研究の立ち上げについて過去の実践を基にまとめてみた。専門とする教科がそれぞれ異なる教員が集まっている公立小学校だからこそ、より丁寧な説明及び提案が必要であったことが確認できる。今後は、校内研究会において実践された研究授業及び、一年間の研究の成果について整理していきたいと考えている。

文献

文部科学省（2008a）：小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編，東洋館出版。

文部科学省（2008b）：小学校学習指導要領解説 生活編，日本文教出版。

資料1. 研究構想図 (2013.4.24)



資料2. 研究推進アンケート

研究推進アンケート

校内研究を進めるにあたり、先生方にアンケートのご協力をお願いしたいと思います。校内研究を進めるということは、教師自らの成長を目指すこととそれ以上に子どもたちの成長を目指していくことにあると考えています。そこでまず、子どもの実態を把握するところから校内研究を創り上げていきたいと考えているため、先生方にアンケートをお願いしたいと思います。

以下が、今年度の研究において高めていきたい力と考えています。研究推進委員会で話題に上がったことを記しておきましたので、付け足しや反対意見等ありましたらお願いします。能力別にしてあります。

1、かかわる力について

【研究推進委員会で話題に上がった子どもの実態】

- ・人懐っこい ・関わりは好きであるが、適切ではない言動がある（TPOをわきまえた言葉）
- ・相手を考えた関わりが必要な子がいる

2、探究する力について

【研究推進委員会で話題に上がった子どもの実態】

- ・探究はすきであるが、自ら進めていこうとする姿は見られないことが多い ・意欲はある
- ・理科や算数で問題解決学習はやってきている ・答えをすぐに見つけたがる
- ・自分たちで課題設定をする姿があまり見られない

3、活かす力について

【研究推進委員会で話題に上がった子どもの実態】

- ・算数などで学んだことを日常生活で話題にしたり生かしたりしている姿は見られる
- ・理科で学んだことを生かし、理科の授業以外でも川の写真から上流なのか下流なのかを考える子どもの姿が見られた
- ・教師が意識して授業を作っているのかどうか…